

## 光学系設計技術部会 講演要旨

開催日：2017年6月22日（木） <2017-1 ①>

テーマ：「写真レンズのボケ描写について」

講演者：馬場信幸氏（工房）

写真レンズはシャープな結像を第一に設計され、その評価も平面チャートで行なわれている。しかし写真で撮影する多くの被写体は3次元であり、これを2次元の平面画像に置き換えた時、ボケが生じる。特に点光源がぼけた時、その写真レンズのボケ描写の良し悪しが明確に現れるが、さらに、そのぼける量が小さいところほど、それが顕著に現れる。その点光源が柔らかくぼけるのが良く、二線ボケなど目障りなボケは良くない。このボケを良くするにはAPD方式と収差方式があり、そのボケにおける描写上の特徴は異なるが、いずれの方式とも絞り開放時にその効果が最大に発揮される。同時に、絞り開放時ゆえに口径食も問題になる。

ボケ描写の良いレンズは写真の品性を高めることから、解像力よりもむしろ重要な性能である。しかし最近のデジタル一眼の高画素化がレンズの高解像力化を招き、これがボケ描写を悪化させている傾向は、健全な写真文化においては憂慮すべき問題である。